

# 秋田県花き振興計画

令和2年3月

秋田県  
秋田県花きイノベーション推進協議会

## 目 次

|     |                |       |    |
|-----|----------------|-------|----|
| I   | 策定の趣旨          | ..... | 1  |
| II  | 位置づけ           | ..... | 1  |
| III | 実施期間           | ..... | 1  |
| IV  | 花きを取り巻く状況      | ..... | 2  |
|     | 1 全国の情勢        |       |    |
|     | 2 本県の状況と課題     |       |    |
| V   | 目指す姿と目標        | ..... | 8  |
|     | 1 目指す姿         |       |    |
|     | 2 花き振興目標       |       |    |
|     | 3 重点品目及び地域振興品目 |       |    |
| VI  | 取組の展開方向        | ..... | 10 |
|     | 1 花き振興のための方向性  |       |    |
|     | 2 品目別の展開方向     |       |    |

## I 策定の趣旨

---

本県では、広大な農地と豊かな水資源、夏場の冷涼な気候を生かし、キク類やリンドウ、トルコギキョウ、シンテッポウユリ、ダリアを始めとした花き生産が行われています。

近年、米の消費低迷を背景に、収益性の高い複合型生産構造への転換に向け、園芸メガ団地等の整備による生産拡大や、オリジナル品種の開発とその普及拡大などに集中的に取り組んだ結果、花きの系統販売額は平成27年度に20億円を突破。平成30年度は22億円と過去最高となるなど、市場評価の高いキク類はもとより、全国第2位の生産量を誇るリンドウや、県内の育種家と連携した「NAMAHA GEダリア」をはじめ、順調に伸びています。一方で、輸入花きの増加やライフスタイルの変化による個人消費の減少、葬儀等の業務用需要の減少など、花きを取り巻く情勢は依然として厳しい中にあります。

国では、平成26年12月に「花きの振興に関する法律（花き振興法）」を施行し、この法律に基づき、花き産業及び花き文化の振興を図るため「花き産業及び花き文化の振興に関する方針」を策定し、花きの生産振興や需要拡大に取り組んできました。

本県においても、花き振興方針の下、生産・流通の現状と課題を踏まえながら、今後も生産者や関係機関・団体と連携して秋田の強みを生かした花き振興をさらに推進していくため、「秋田県花き振興計画」を策定しました。

## II 位置づけ

---

「秋田県農林水産業・農山漁村振興基本計画 第3期ふるさと秋田農林水産ビジョン」における、花き振興の具体的な実施方針として、位置付けます。

## III 実施期間

---

計画の期間は、令和2年度（2020年度）から、第3期ふるさと秋田農林水産ビジョンの10年後の姿としている令和7年度（2025年度）までの5年間とします。

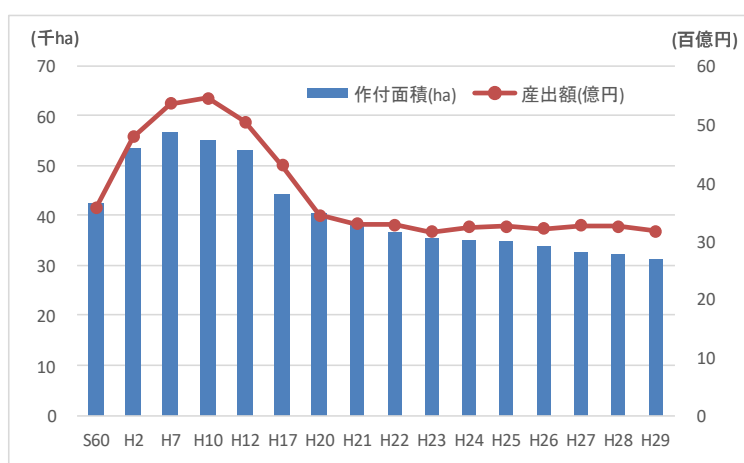
## Ⅳ 花きを取り巻く状況

### 1 全国の情勢

#### (1) 生産

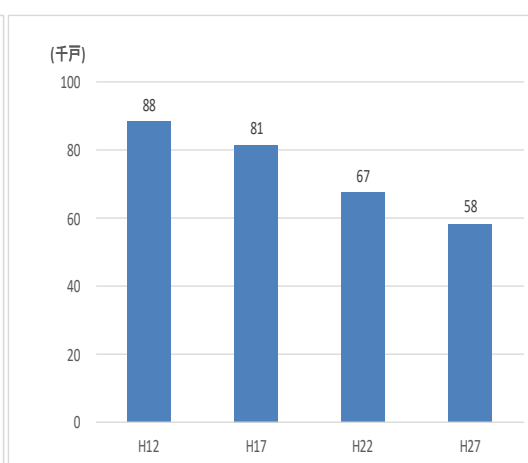
国内の花き産出額は、平成29年に3,327億円（対前年比97%）となっています。産出額は平成に入ってから増加していましたが、平成10年をピークに平成20年まで大きく減少し、その後、横ばいで推移しています。作付面積も平成7年をピークに、近年は漸減傾向で推移しています。（図1）

また、花きの販売農家数も減少傾向にあり、平成27年は15年前に比べ約66%となっています。（図2）



＜図1＞花きの産出額・作付面積の推移

（資料：農林水産省「花きの生産状況等調査」「花木等生産状況調査」）



＜図2＞花き販売農家数の推移

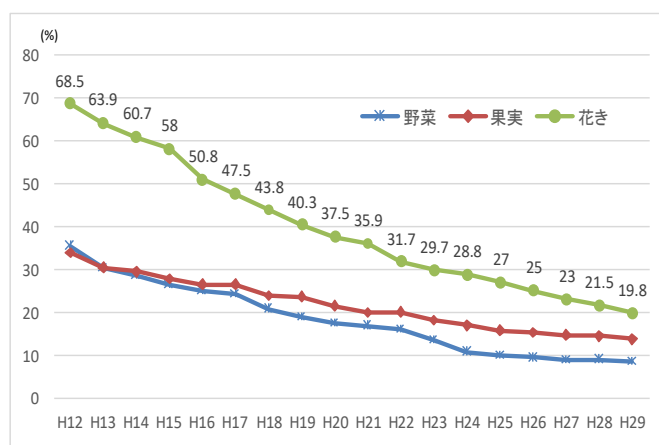
（資料：農林業センサス）

#### (2) 流通及び消費

国産花きの流通は、品目・品種が非常に多いこと、小売構造が零細である事により、卸売市場経由率が青果や水産物に比べて高い状況にあります。（図3）

花き中央卸売市場におけるセリによる取引割合は約3割で、野菜や果実に比べて高いものの、相対取引等の増加により年々低下しています。

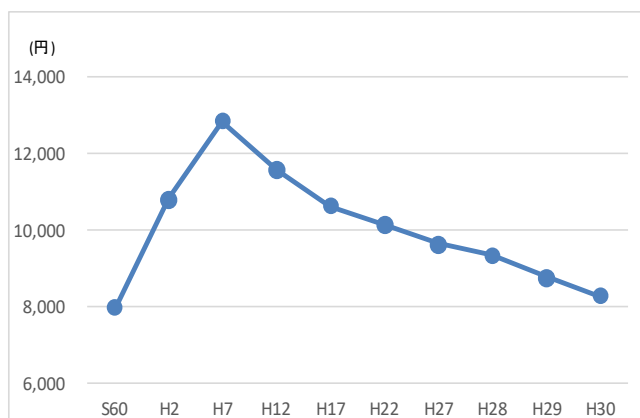
花きの消費では、切り花の一世帯あたりの年間購入金額が、平成7年をピークに減少にあります。（図4）



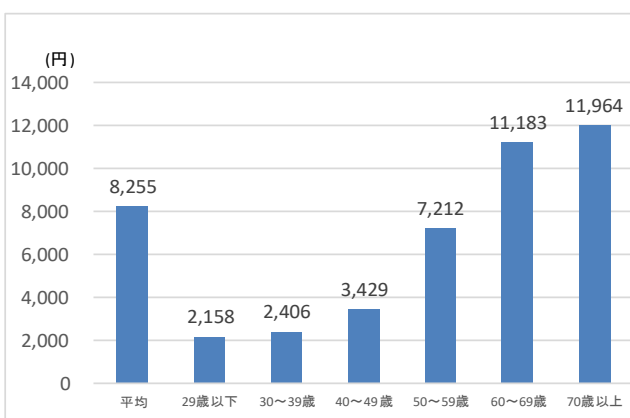
＜図3＞農林水産物の卸売市場経由率

（資料：農林水産省「卸売市場データ集」）

世帯主の年齢別に見ると、60代以上の購入金額は1万円を超えていますが、若年層ほど低く、花に触れる機会が少なくなっています。(図5)



＜図4＞切り花の一世帯あたりの年間購入額の推移  
(資料:総務省統計局「家計調査年報」二人以上の世帯)



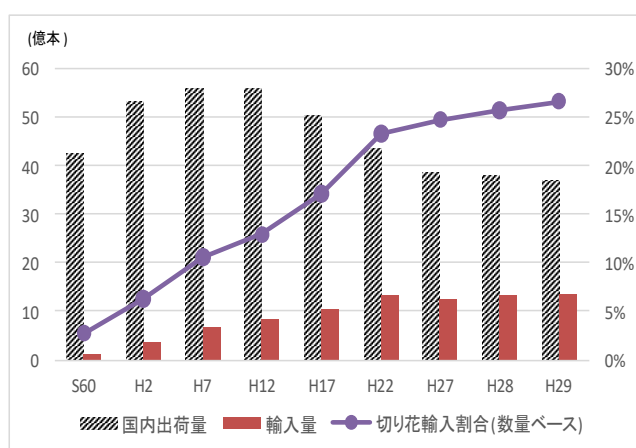
＜図5＞世帯主年齢別年間切り花購入額(H30)  
(資料:総務省「家計調査年報」二人以上の世帯)

### (3) 輸入・輸出

#### ①輸入

花きの輸入は、切り花類が大半を占め、関税が廃止された昭和60年以降増加傾向にあります。切り花の国内流通量に占める輸入の割合は、平成29年には27%（数量ベース）と高い状況にあります。(図6)

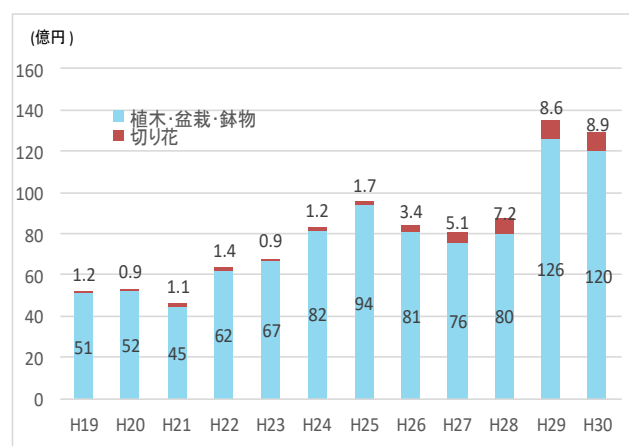
輸入品目は、カーネーション、バラ、キク類の割合が高く、日持ち等の品質向上によりカーネーションやキクの増加が顕著です。主な輸入相手国は、コロンビア、マレーシア、中国等となっています。



＜図6＞切り花の国内出荷量・輸出量・輸入割合の推移  
(資料:農林水産省「花きの生産状況等調査」「植物検疫統計」)

#### ②輸出

平成30年の花き輸出額は129億円（前年比95%）と前年よりやや減少しました。輸出の大半を植木・盆栽・鉢物が占めており、切り花は絶対数が少ないものの、近年着実に増加しています。(図7)



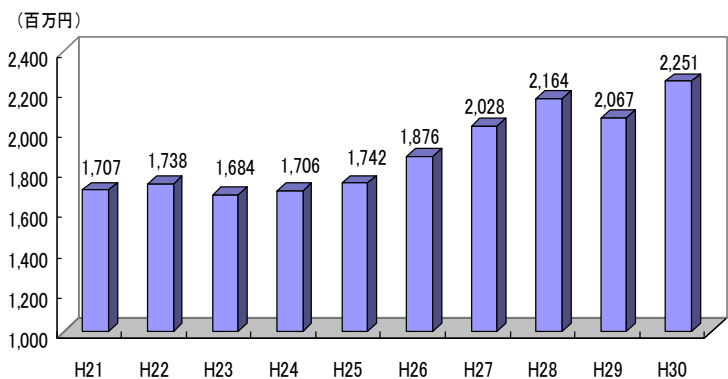
＜図7＞花き輸出額の推移 (資料:財務省「貿易統計」)

## 2 本県の状況と課題

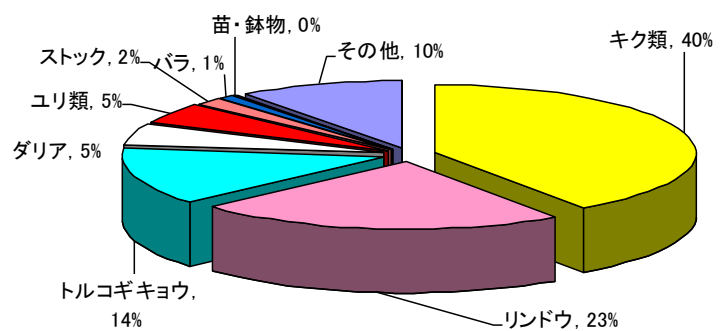
### (1) 生産の現状

本県の花き生産は、重点5品目（キク類、リンドウ、トルコギキョウ、ユリ類、ダリア）を中心に県内で広く栽培されており、園芸メガ団地等における花きの導入などにより販売額は着実に伸びています。（図8）

平成30年度の花き系統販売額は22.5億円と前年度対比112%となっており、品目別の割合はキク類40%、リンドウ23%、トルコギキョウ14%、ユリ類5%、ダリア5%と、これらの主要5品目で8割以上を占めています。（図9）

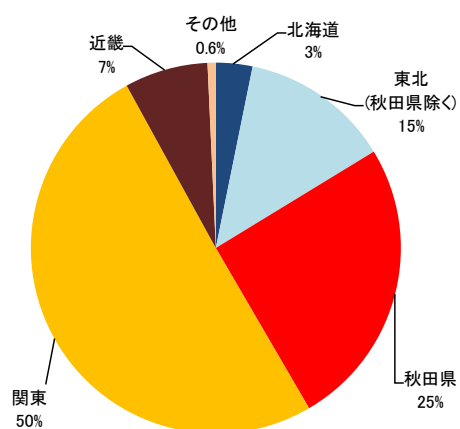


〈図8〉花き系統販売額の推移（資料：全農あきた調べ）



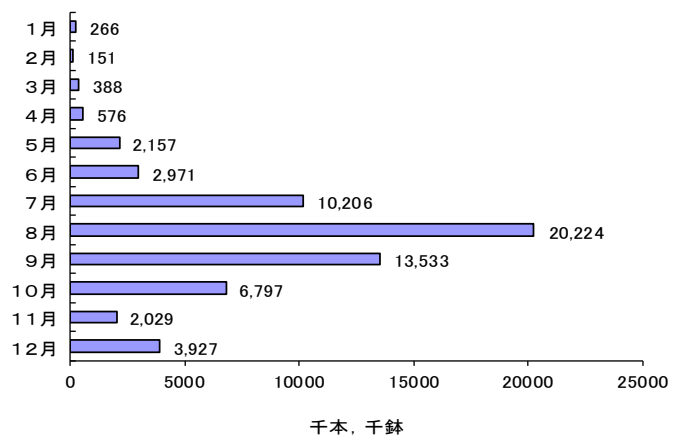
〈図9〉花き品目別系統販売額の割合（資料：全農あきた調べ）

また、花きの出荷割合は、関東地域50%、県内25%、東北地域（秋田県を除く）13%となっているほか、月別の出荷数量は、8月が20,224千本で最も多く、次いで9月が13,533千本、7月が10,206千本となっており、この3カ月で年間の約7割を出荷しています。（図10、図11）



〈図10〉30年産花きの出荷先

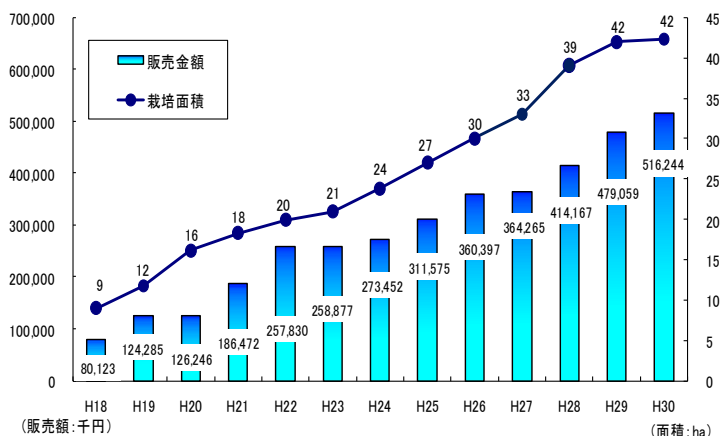
（資料：県園芸振興課調べ）



〈図11〉30年産花きの月別出荷量

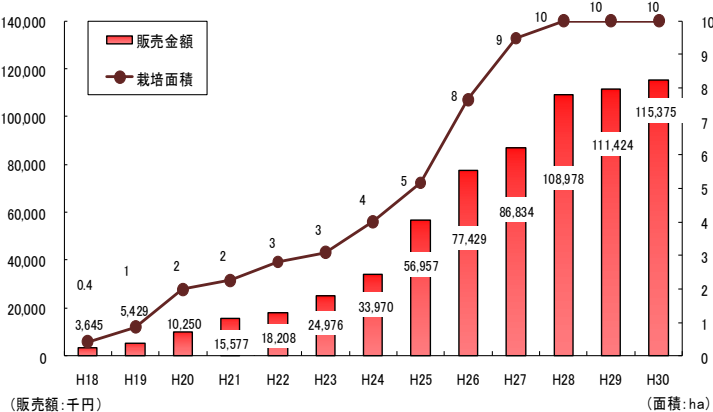
（資料：県園芸振興課調べ）

水田転作に適した品目として導入が進められているリンドウは、年々生産が拡大し、平成30年度の販売金額は約5億2千万円となり、生産量は岩手県に次ぐ全国第2位となっています。(図12)



＜図12＞ リンドウ系統販売額及び栽培面積の推移

ダリアについても産地化が進んでおり、平成30年度の販売金額は1億1千万円です。県ではこれまで、ダリアの生産拡大を図るため、国内有数の育種家と連携し、県オリジナル品種「NAMA HAGE ダリア」の開発を行ってブランド化を進めており、勢いのある品目となっています。(図13)



＜図13＞ ダリア系統販売額及び栽培面積の推移

## (2) 県オリジナル品種

県の重点品目であるリンドウとダリアの産地化を強力に進めていくため、民間育種家と連携したオリジナル品種の開発・普及に取り組んでいます。

現在、「秋田りんどう」は6品種、「NAMA HAGE ダリア」は36品種がラインアップされており、ジャパンフラワーセレクションにおいて、平成25年に「NAMA HAGE マジック」、平成27年に「NAMA HAGE チーク」がフラワー・オブ・ザ・イヤーを受賞しています。

オリジナル品種の種苗は、秋田県花き種苗センターで生産され、県内の生産者に安定供給されています。

| 愛称／登録品種名            | 出荷スケジュール |    |    |    |     |
|---------------------|----------|----|----|----|-----|
|                     | 6月       | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 |
| あきたの空／ながの極早生        | ■        | ■  |    |    |     |
| あきたの夏空              |          | ■  | ■  |    |     |
| あきたの青／スカイブルーしなの早生   |          | ■  | ■  |    |     |
| あきたの秋空／F1しなの3号      |          |    |    | ■  | ■   |
| あきたの藍               |          |    |    | ■  | ■   |
| あきたのファンタジー／マイファンタジー |          |    |    |    | ■   |

秋田  
りんどう

「秋田りんどう」  
ロゴマーク

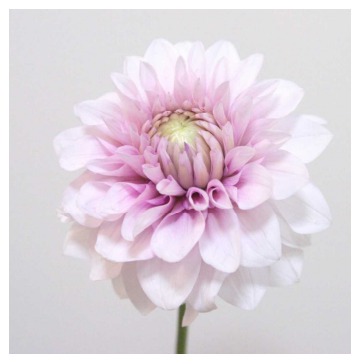
〈図14〉 オリジナル「秋田りんどう」出荷スケジュール

|                  |                   |                    |                    |
|------------------|-------------------|--------------------|--------------------|
| 1 NAMAHAJE パープル  | 11 NAMAHAJE カーニバル | 21 NAMAHAJE チーク    | 31 NAMAHAJE マカロン   |
| 2 NAMAHAJE ノアール  | 12 NAMAHAJE フラミンゴ | 22 NAMAHAJE シフォン   | 32 NAMAHAJE MASARU |
| 3 NAMAHAJE マジック  | 13 NAMAHAJE ビューティ | 23 NAMAHAJE オーブ    | 33 NAMAHAJE コウセイ   |
| 4 NAMAHAJE レディ   | 14 NAMAHAJE クイーン  | 24 NAMAHAJE ローズカップ | 34 NAMAHAJE プリティ   |
| 5 NAMAHAJE サンセット | 15 NAMAHAJE ソレイユ  | 25 NAMAHAJE クリムゾン  | 35 NAMAHAJE ノンチャン  |
| 6 NAMAHAJE ハピネット | 16 NAMAHAJE オータム  | 26 NAMAHAJE みやび    | 36 NAMAHAJE REIWA  |
| 7 NAMAHAJE キュート  | 17 NAMAHAJE ニュアンス | 27 NAMAHAJE パール    |                    |
| 8 NAMAHAJE パッション | 18 NAMAHAJE ドルチェ  | 28 NAMAHAJE トランプ   |                    |
| 9 NAMAHAJE スワン   | 19 NAMAHAJE ペガサス  | 29 NAMAHAJE エポック   |                    |
| 10 NAMAHAJE ムーン  | 20 NAMAHAJE キャロット | 30 NAMAHAJE イヴァンカ  |                    |

〈図15〉 NAMAHAJE ダリア品種一覧



NAMAHAJEマジック



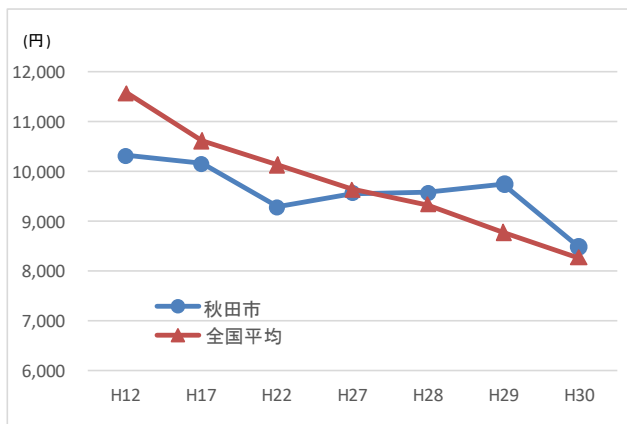
NAMAHAJEチーク

### (3) 流通及び消費

県産花きの流通は、J Aを通じた市場出荷が主体となっており、全体の3／4が県外消費となっています。秋田市における平成30年1世帯あたりの切り花購入金額は8,467円と、全国平均の8,255円と比べ、やや高くなっていますが、長期的に見ると減少傾向となっています。(図16)

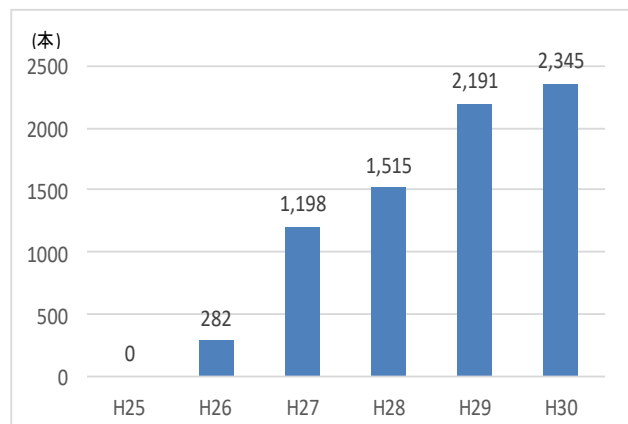
県内の消費拡大対策として、生産者、市場、小売店などの花き関係者が連携して開催している「秋田県花の祭典」をはじめ、小学生を対象に実施している花育活動やスポーツ大会でのビクトリーブーケ提供などの活動を実施しています。





＜図16＞切り花の一世帯あたりの年間購入額の推移

(資料:総務省統計局「家計調査年報」二人以上の世帯)



＜図17＞秋田県の花き輸出量の推移

(資料:全農あきた調べ)

#### (4) 輸出

県産花き輸出の取り組みは、花き振興法制定をきっかけに、国産花きイノベーション推進事業を活用して平成26年からスタートしました。

現在は、首都圏仲卸業者を通じて主にダリアが香港へ輸出されており、徐々に伸びてきています。数量は少ないものの、海外産にはない花色や花型、花の大きさなどが認知され、定期輸出となっています。

#### (5) 生産振興の課題

リンドウとダリアは順調に増加しているものの、それ以外の品目は、生産者の高齢化により各産地とも産地規模は現状維持から縮小傾向にあることから、次代を担う若い農業者の確保・育成に加え、人手不足を補うスマート農業技術の導入・普及が急務となっています。

また併せて、冬期の所得確保による経営安定のため、ストックやチューリップ、ラナンキュラスなどの冬期生産品目の推進も重要な課題です。

#### (6) 流通・消費の課題

大規模消費地から遠い本県では、物流の確保及び流通コストの削減が大きな課題となっています。

また、ライフスタイルの変化や冠婚葬祭の簡素化などから花きの消費量は減少傾向にあることから、盆や彼岸などの供花のほか、記念日や卒業・入学等のお祝いなどの贈答用における利用促進の取り組みが必要となっています。

併せて、花き購入機会の少ない若年層や子供達が花に触れる機会、花に親しむ環境づくりをしていくことも重要です。

## V 目指す姿と目標

第3期ふるさと農林水産ビジョンにおける施策「複合型生産構造への転換の加速化」に位置づけ、本県花きの現状と課題を踏まえ、関係者が一体となって秋田のオリジナル品種を核とした生産体制の強化、花き若手農業者リーダー等担い手の育成により活気ある花き産地育成を推進します。

### 1 目指す姿

#### (1) スマート農業技術の導入と担い手育成による高品質花き生産

気象変動に左右されない安定生産に向けた技術の高位平準化と、新規就農者・新規栽培者の技術定着が速やかに図られるよう指導体制を強化する。併せて、高齢化や人口減少を背景とした労働力不足に対応し、園芸メガ団地や農業法人等においてスマート農業技術の導入・普及を推進し経営の安定化を図る。

#### (2) オリジナル品種開発と迅速な普及拡大

民間育種家と連携した県オリジナル品種の開発や生産・販売対策の強化に取り組むと共に、全国展開を視野に他産地とのリレー出荷体制の整備を進める。併せて、迅速な産地普及のための種苗供給体制を強化する。

#### (3) 花き文化の振興と消費拡大の推進

スポーツイベント等でのビクトリーブーケや、幼い頃から花に親しみ花を飾る・贈る・思いやりの心を育む花育、長寿社会に対応した園芸療法の促進、住みよい地域を築く景観形成など、花のある暮らしや文化の充実を図る。



男鹿・潟上地区園芸メガ団地

## 2 花き振興目標

花きの産出額を、5年後の令和7年に45億円とする。

|         | H30(実績)    |              |              | R3(中間年)    |              |              | R7(目標年)    |              |              |
|---------|------------|--------------|--------------|------------|--------------|--------------|------------|--------------|--------------|
|         | 面積<br>(ha) | 出荷数量<br>(千本) | 産出額<br>(百万円) | 面積<br>(ha) | 出荷数量<br>(千本) | 産出額<br>(百万円) | 面積<br>(ha) | 出荷数量<br>(千本) | 産出額<br>(百万円) |
| キク類     | 108        | 21,433       | 1,100        | 154        | 32,430       | 1,622        | 188        | 39,419       | 1,971        |
| リンドウ    | 42         | 10,697       | 508          | 49         | 12,316       | 555          | 60         | 14,970       | 674          |
| トルコギキョウ | 16         | 3,117        | 260          | 21         | 4,204        | 463          | 23         | 4,551        | 501          |
| ユリ類     | 13         | 1,214        | 176          | 16         | 2,096        | 168          | 18         | 2,359        | 189          |
| ダリア     | 10         | 819          | 116          | 15         | 1,536        | 200          | 19         | 2,432        | 317          |
| 花き合計    |            |              | 3,100        |            |              | 3,792        |            |              | 4,500        |

※第3期ふるさと秋田農林水産ビジョンの見直しに併せ変更する。

※H30実績の品目ごとの数値は園芸振興課調べ

## 3 重点品目及び地域振興品目

重 点 品 目：キク類、リンドウ、トルコギキョウ、ユリ類、ダリア

地域振興品目：バラ、デルフィニウム、ストック、ケイトウ、ラナンキュラス、カンパニュラ等、鉢物・苗物類

## VI 取組の展開方向

---

### 1 花き振興のための方向性

#### (1) 県産花きの生産拡大と生産体制の強化

- ・ 県の重点施策「米依存からの脱却」「複合型生産構造への転換」を推進し、水田からの転換品目として有望なリンドウや小ギク等の作付け誘導を図る。
- ・ 消費者ニーズや市場動向の変化に対応できる品種導入を図るため、民間育種家と連携するとともに、開発された品種が迅速に県内産地に供給できるよう県花き種苗センターにおける増殖の効率化と種苗供給体制を強化する。
- ・ 園芸メガ団地等の大規模経営体における生産や労務管理の効率化、省力・低コスト生産を推進するため、ICT等の先端技術を活用したスマート農業の展開を図る。
- ・ 積雪寒冷地に適応した低コスト生産技術の導入等により、冬期に出荷可能な品目の生産拡大を推進する。

#### (2) 次代を担う担い手の確保・育成

- ・ 花き栽培を希望する意欲ある経営体を確保し、地域の担い手として発展できるよう、高校生を対象としたインターンシップの実施や、県・市町村等の施設における農業技術研修のほか、補助事業による機械・施設等の整備など、総合的な支援を行う。
- ・ 園芸メガ団地等での雇用就農、多様なルートと幅広い年代からも新規就農者を確保・育成するとともに、法人経営のリーダーを育成するため、農業法人の若手後継者を対象に経営マネジメント能力の向上や経営ノウハウの習得を図る。
- ・ 秋田県花き生産者連絡協議会の活動の充実やJA花き部会の活性化を図り、産地を越えた生産者の交流を推進する。

#### (3) 流通・販売対策の強化

- ・ 延着に対応した2日前出荷の定着と、ロットの取りまとめ及びトラック配送ルート等の見直しによる輸送の効率化を図る。
- ・ 首都圏市場における「NAMA H A G E ダリア選抜総選挙」及び選考会等を開催し、マーケットインの視点による品種の選定や作付けを推進する。
- ・ 量販店需要や輸出に対応できる環境に配慮した生産方式としてGAPやMPSなどの導入を推進する。



#### (4) 県産花きのPRと消費拡大

- ・生産者や関係機関と連携した秋田県花の祭典や花き品評会など各種イベントを開催し、花に触れる機会を創出するとともに、消費者・実需者に対する県産花きのPR・利用促進を図る。
- ・「フラワーバレンタイン」や「フラワービズ」「お月見」「重陽の節句」など、新たな需要創出の機会をPRし、花きの消費拡大を推進する。
- ・秋田25市町村対抗駅伝やモーグルワールドカップ等のスポーツイベントでのビクトリーブーケや大会会場装飾での花き活用を推進する。
- ・一花一葉やフラワーアレンジメント、寄せ植え体験講座などの花育活動の実施や、地域や集落景観としての花壇等の整備促進を図る。



モーグルワールドカップ



NAMAHAGEダリア品種展示



花育「一花一葉」体験講座

## 2 品目別の展開方向

### (1) キク類

#### ◆現状と課題

- ・本県の花き生産において販売額第1位の品目で、全体の約4割を占めます。
- ・全県のほぼ全域で輪ギク、小ギク、スプレーギクが栽培され、近年はディスプレイマムの導入が広がっています。
- ・小ギクは新規栽培者でも比較的栽培しやすいことから、大規模園芸メガ団地等で導入されていますが、需要期出荷に向けた安定生産技術や大規模生産に対する機械化など効率的な生産技術の確立が求められています。



#### ◆振興方策

- ・花きの基幹品目として、地域の特性を生かし、園芸メガ団地等を核とした生産拡大を重点的に進める。
- ・夏季冷涼な気候を生かし、7～9月の需要期出荷に向け、機械化体系の整

備や実需者ニーズに対応した商品作りを構築する。

- ・需要期計画・安定出荷に向け、露地電照による開花調節技術の技術確立による需要期出荷ロス率低減を図る。
- ・仏花のイメージを払拭し、キクの新たな需要拡大が期待できるディスプレイマムの作付け拡大を目指し、本県の気象条件に合う品種の選定や栽培技術の確立を行う。

## （２）リンドウ

### ◆現状と課題

- ・平成14年に作付けが始まって以降、水田転作に適した品目として中央地区、県南地区を中心に飛躍的に面積が拡大し、平成30年度の販売額は5億円を突破し、全国第2位の品目となりました。
- ・リンドウは栽培期間中の温度条件に開花時期が大きく左右されることから、民間育種家と連携して開発したオリジナル品種6品種を含めた複数品種による出荷期調整を行っています。
- ・出荷期が盆・秋彼岸に集中することから、面積拡大には作期拡大による労力分散等の対策が必要となっています。
- ・首都圏の花束加工業者等からは、短茎出荷の要望もあり、出荷先に応じた柔軟な対応が必要となっています。



### ◆振興方策

- ・需要に対応した品種選定や計画的な新改植への支援を図る。
- ・民間種苗メーカーとの種苗供給連携体制を強化し、県オリジナル品種の作付け拡大を推進。
- ・重点市場における販売促進活動や実需者から求められる出荷規格への対応など、首都圏等のマーケットに高く評価される産地を育成。

## （３）トルコギキョウ

### ◆現状と課題

- ・県南地区・中央地区で多く栽培され、9月～10月出荷の抑制栽培が主流となっています。
- ・県農業試験場ではオリジナル品種の育種を進め、「こまちホワイトドレス」「こまちグリーンドレス」「秋田の青藍」が開発されています。
- ・毎年多くの品種が種苗会社から出されており、市場ニーズに対応かつ本県の気象条件に適した品種の選定が必須となっています。

#### ◆振興方策

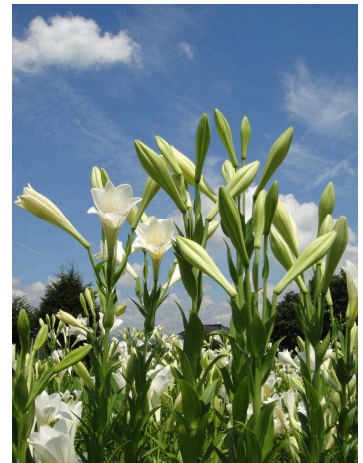
- ・県花き種苗センターから優良種苗を安定的に供給することで、需要期出荷に対応した確実な作付を実施。
- ・9～11月の秋出荷に向けた作付拡大のため、短日処理や電照技術の確立などを取り入れた高品質安定栽培技術の推進を図ります。



### (4) ユリ類

#### ◆現状と課題

- ・露地水田転作できる種子系のシンテッポウユリが主力で、主に鹿角市と横手市で栽培されています。
- ・県農業試験場では、有葯無花粉のシンテッポウユリの開発に成功し、令和2年度中のデビューを予定しており、今後、県花き種苗センターでの種苗生産・供給を予定しています。



#### ◆振興方策

- ・有葯無花粉新品種のデビューに向けた販売プロモーションの実施と併せて栽培技術の確立と早期普及拡大を図る。
- ・県花き種苗センターによる新品種の種苗供給体制を整備する。

### (5) ダリア

#### ◆現状と課題

- ・平成19年から本格的に栽培が始まり、国内有数のダリア育種家と連携して育成した県オリジナル品種「NAMAHA GEダリア」を主体に生産振興を進めてきた結果、栽培面積、栽培戸数ともに全国1位となりました。
- ・一方、栽培経験の少ない生産者が多いことや露地栽培が多く天候に左右されやすいことから単収が低く、出荷数量及び販売額が低いことが日本一獲得に向けた課題となっています。
- ・「NAMAHA GEダリア」は36品種ありますが、栽培が難しい品種も多くあることから、品種選抜からデビューまでの方針の見直しが必要です。



#### ◆振興方策



- ・技術力の高い生産者を「秋田ダリア栽培技術アドバイザー」に委嘱し、現地指導体制を強化し、単収向上を目指す。
- ・新規就農者等の早期の経営安定化を図るため、技術の見える化等を活用した短期間での栽培技術習得を図る。
- ・「NAMAHAGEダリア」の新品種開発を継続しつつ、デビューまでの方針を再検討し、市場性・生産性の極めて高い品種育成を目指す。
- ・県花き種苗センターによる「NAMAHAGEダリア」新品種の種苗供給体制を強化する。
- ・「NAMAHAGEダリア」のプロモーション活動や、宮崎県と連携したリレー出荷の推進による全国展開を視野に入れた販売を促進する。

## (6) 地域振興品目

### ◆現状と課題

- ・栽培面積は少ないものの、各産地において実需者ニーズに対応した作付けが行われています。
- ・冬期農業の有望品目として、ラナンキュラスの導入に注目が集まっており、本県に適した栽培技術の確立が求められています。

| 品 目     | 主な産地              |
|---------|-------------------|
| バラ      | 由利本荘市、潟上市         |
| デルフィニウム | 大館市、北秋田市          |
| ストック    | 湯沢市、羽後町           |
| ラナンキュラス | 羽後町、横手市           |
| カンパニュラ  | 羽後町、横手市           |
| ケイトウ    | 大仙市、仙北市           |
| 鉢物・苗物類  | 潟上市、秋田市、由利本荘市、横手市 |

〈図18〉 主な地域振興品目と産地

### ◆振興方策

- ・各地域振興局農業振興普及課において生産者や農業団体等と連携し、作付拡大と技術向上を図る。
- ・冬期栽培に必要な機械・設備等の導入支援や消費拡大プロモーション等の実施により、冬期品目の作付拡大を推進する。
- ・ラナンキュラスの単収増加に向けた電照試験の実施や、球根冷蔵技術等の普及・定着を図る。

